

2011年3月1日

NPO VERSTA

小野瀬 由一

平成23年ブラジル SP州セテバラス市アグロフォレストリー現地調査報告書

1. 調査目的

平成22年度「農林水産省補助事業食料供給安定化国際連携対策事業」の一環として、サンパウロ州日系農協等を訪問し、当NPOの主要事業であるAFによる熱帯雨林再生・保全支援に関する現地調査及びアグロビジネス創出に関する会議・セミナー等を行い、支援を実現のための課題や解決法等について情報交換を行う。

2. 調査概要

NPO支援活動の候補地であるサンパウロ州セテバラス市リオプレット部落のジュラサヤシAF産地の現地調査により生産課題について、受入組織候補であるカッポン・ボニート農協との会議でジュサラヤシAF支援課題について、連邦サンカルロス大学との会議でジュサラヤシAFのPJ構築・運営課題について、またブラン・コペレス社との会議でコーヒーAFやバガス利用について、デロイト・トーマツとの会議で伯国でのNPO設立について、情報交換及び意見交換を行った。

3. 調査行程：2011年2月19日（土）出国～2月28日（月）帰国

【現地調査日程】

- ・2月21日（月）07：30 ホテル発
08：00 Congonhasピックアップ後、車移動
13：00～17：00 リオプレット村AF会議・現地調査
20：00 ホテル着(Hotel Baguassu)
20：30～23：00 夕食+カッポン・ボニート農協
- ・2月22日（火）08：00～11：30 カッポン・ボニート農協
11：30～13：00 昼食
15：00～17：00 サンカルロス大学 Fernando Silveira Franco 教授訪問
19：00 ホテル着(Mercure Apartments Sao Paulo Times Square)
19：00～22：00 夕食会
- ・3月23日（水）05：30 ホテル発 06：50 SP-Guarulhos 着
07：50 SP-Guarulhos 発
09：50 Presidente Prudente 着
10：30 Presidente Prudente 発
12：00 Adamantina 着
12：00～14：00 昼食

14：00～18：00 ブランコ・ペレス農場訪問

19：00 ホテル着 (Villa Verde Hotel)

19：30～23：00 夕食会

・3月24日(木) 07：30 Adamantina 発

09：00 Presidente Prudente 着

10：10 Presidente Prudente 発

11：55 SP-Guarulhos 着

12：30 SP-Guarulhos 発

13：00 ホテル着 (Mercure Apartments Sao Paulo Times Square)

13：00～15：00 昼食

16：00～17：00 監査法人デロイト・トーマツ中村氏会議

19：00～23：00 夕食会

4. 調査結果

(1) リオプレット部落住民とのジュサラ AF に関する会議

1) 訪問先/訪問先対応者

セテバラス市リオプレット部落/住民約40名+リオプレット村 Olympio Rosa da Silva リーダー、サンカルロス連邦大学 (UFSCar) ソロカバキャンパス Pedro Kawamura 大学院生、サンパウロ州環境局森林財団 (FF) Wagner G.Prtilho 職員、カルロスポテリョ州立公園 (PECB) Jose Luiz Maia 主任、セテバラス市 Gilberto Oht 農務部長、サンパウロ市環境局森林院 (IF) Cristina do Marco Santiago 研究員、Flaiviana Maluf de Souza 研究員、エコツリズモ Geraldo Francisco de Aguiar 氏、元 IF 総裁山添源二博士

2) リオプレット部落 AF 事業概要

リオプレット部落はセテバラス市に属しており、サンパウロ市から 230 キロ、レジストロ市より北方向 50 キロに位置、最後の 5 キロは未舗装道路、PECB 南境界に隣接している。部落の隣り合わせに 1976 年州政府が農地改革による約 2000 ヘクタールの分譲地がある。

リオプレット部落住民は 1998 年より IF 及び FF バックアップのもとにジュサラヤシの造成を手がけている。

3) 取扱商品

バナナ、ププニャヤシ、ジュサラヤシ

4) セテバラス市 Gilberto Ohta 農務部長の報告

農家所得の低さと政策の遅れによりパルミット盗伐が横行しているため環境対策が必要である。

農家の新しい商品供給源として、AF によるジュサラパルプの供給を期待している。

リオプレット部村の特性を理解した上で協力をお願いしたい。

5) FF Wagner G.Prtilho 職員の報告

市による PJ が最後までやれないことが多かったため、関係者の支援により最後までやり

切ることが大切である。

6) リオプレット部落住民 Silva リーダーの意見

スパ計画やジュサラ栽培計画については、ほとんどの住民が賛成している。

VERSTA 支援活動については、最後まで支援活動を継続して、見守ってほしい。

7) 所感

ジュサラヤシ AF プロジェクト組織の構築、継続運営のための教育体制・教育プログラムの構築、事業継続のための運営評価・監査システムの構築が優先課題と思われる。



Fig1.リオプレット村ジュサラヤシ AF 栽培地



Fig2.ジュサラヤシ樹種



Fig3.ジュサラヤシ・ジュース



Fig4.リオプレット村調査参加者

(2) カッポン・ボニート農協 (CACB) のリオプレット部落ジュサラ AF 支援に関する VERSTA との連携に関する会議

1) 訪問先/訪問先対応者

CACB/Emillo Kenji Okamura 理事長、Luiz Carlos Mariott 理事他 4 名、元 IF 総裁山添源二博士

2) CACB の事業概要

組合農家は 60 農家。作物は、果物 (柿、ブドウ、リンゴ、びわ、キウイなど)、野菜 (大豆、トウモロコシ、トマト、ジャガイモ、玉ねぎ、ピーマンなど)

3) カッポン・ボニート農協 Okamura 理事長の意見

ブラジルの 20%森林化規制は今後厳しくなり、パラナー流域にあるリオプレット部落のジュサラヤシ AF による天然森林の保全は森林オフセット対象として重要である。

ジュサラパルプの流通には冷凍庫が必要であり、カッポン・ボニート農協として提供可能である。

AF プロジェクトの明確化、リオプレット部落民の教育、ジュサラパルプ商品登録、輸出許可などの課題は残るが基本は出来ているので解決可能である。

4) 所感

ブラジル 20%森林化規制のオフセットとして、リオプレットの天然林ジュサラヤシ AF は有望である。実現のためには、産学共同生産 PJ の構築とジュサラパルプ栄養分析と商品化認定が課題である。



Fig5. CACB との会議



Fig6.CACB 会議参加者



Fig7.CACB サイロ見学



Fig8.CACB 受入検査室見学

(3) サンカルロス連邦大学 (UFSCar) のリオプレット部落 AF 支援に関する VERSTA との連携に関する会議

1) 訪問先/訪問先参加者

UFSCar/ソロカバキャンパス Mrceilo Nivert Schlindwein 副理事長、Fernando Silveira Franco 教授他 2 名、元 IF 総裁山添源二博士

2) UFSCar の研究概要

開学2年の新しい連邦大学で、学部では文化・芸術・農業の15コース、大学院（マスター）では3コースがあり、学生数は1,600人。大学は、教育・研究・普及を主活動としており、特に持続可能性の研究を重要研究テーマとしている。

3) UFSCar Franco 教授の意見

マタ・アトランチカの小農支援では、AF 手順の指導が重要である。

農業システムとしてのAFは小農の付加価値産品生産に向く。そのKey Wordは多様性である。

リオプレット部落のジュサラAF支援PJメンバーとして協力したい。

4) UFSCar Rodrigvos 海外担当の意見

AFシステムのマニュアル作り、環境影響モニタリング、ビジネス創出会議、生産力向上がKey。

5) 所感

日本との交流実績もあり、今回のセテバラス市のジュサラヤシAF栽培現地調査にも同大大学院生が参加したので、現地AF教育・指導組織として連携を進めていきたい。



Fig.9 サンカルロス大学との会議



Fig.10 サンカルロス大学会議参加者

(4) ブランコ・ペレス社 (BP) Adamantina サトウキビ・砂糖&エタノール工場の見学及びバガス飼料化に関する会議

1) 訪問先/訪問先対応者

ブランコ・ペレス社/ウィリアム・ブランコ・ペレス総裁、ホドリゴ・ブランコ・ペレス社長、エタノール工場長ジョン・パウロ氏、コーヒー焙煎工場長ワルター・ピント氏

2) BP の事業概要

経歴は、1957年創業、1996年に「cafre do centro (創業1916年)」を買収。

取扱農産品は、コーヒー豆 (ブラジルコーヒー栽培30%)・オレンジ果実 (栽培・生産・輸出货量世界第4位)・砂糖きび・家畜など。

輸出先は、欧州・アジア・オセアニア・北米・南米。

売上規模は、US\$130,000,000（2008年）。

3) BPの取扱商品

取扱商品は、焙煎挽き豆ブランド「via cafe」・焙煎豆ブランド「cafre do centro」・エスプレッソ豆（ブラジル唯一の最新鋭コーヒー豆選別機整備）、インスタントコーヒー・オレンジ濃縮ジュース・燃料用エタノールなど。

4) BP社ウィリアム・ブランコ・ペレス総裁の意見

CSR活動は企業の社会貢献活動として重要となっており、BP社としても協力できることがあれば協力したい。

5) BP社ホドリゴ・ブランコ・ペレス社長の意見

Adamantina工場では、月間で砂糖7万トン、エタノール6万トン、バガス4万トンを産出する。バガスはコ・ジェネレーション発電用原料として主に使用しており、現在余った電力を市に提供する話しが進んでいる。また、バガスを飼料業者にも売っているが、ペレット化にしているかどうかの情報はない。

6) 所感

今回の調査で、BP社ではバガスを飼料業者に売却していることは分った。しかし、バガスのペレット飼料化については、飼料業者や大学などの専門家からの継続調査が課題として残った。



Fig.11 BP社エタノール工場



Fig.12 BP社サトウキビ・バガス



Fig.13 BP コーヒー豆形状検査工程



Fig.14 BP社との会議

(5) Deloitte Touche Tohmatsu パートナー中村敏幸氏との伯国における NPO 設立に関する会議

1) 対応者

Deloitte Touche Tohmatsu パートナー中村敏幸氏、タックスシニアマネージャー河内山秀樹氏

2) Deloitte Touche Tohmatsu の事業概要

ロンドンを発祥地とし、本部はニューヨークであり、加盟する会計事務所は世界 150 カ国に及ぶ世界最大の会計事務所である。

会社の沿革は、1990 年 1 月デロイト・ハスキング・アンド・セルズ会計事務所とトウシュ・ロス会計事務所が合併し、デロイト&トウシュ会計事務所が発足。これに合わせ、国際組織デロイト・ハスキング・アンド・セルズ・インターナショナルとトウシュ・ロス・インターナショナルも合併。国際名称をデロイト ロス トーマツ インターナショナル(DRTI)に変更。1992 年 6 月国際名称をデロイト トウシュ トーマツ インターナショナル(DTTI)に変更、1998 年 1 月国際名称をデロイト トウシュ トーマツ(DTT)に変更。

3) Deloitte Touche Tohmatsu の取扱商品

業務は、監査、コンサル、M&A、税務のローカルサービス、クロスボーダーサービスおよびそれらを組み合わせた包括的なサービスを行っている点に特徴がある。また、環境関連分野にも積極的に力を入れている。

4) Tohmatsu パートナー中村敏幸氏の意見

ブラジルにも NPO 組織があり登録申請は可能だが、ブラジル中央銀行への登録が必要になってくる。その際は、弁護士費用と ID 取得費用が掛かってくる。

NPO 事業の第三者監査については、事業の透明性確保のためには必要になってくる。

ブラジルでは既に国際会計が導入されており、会計監査は国際会計基準に基づく監査となる。

5) Tohmatsu タックスシニアマネージャー河内山秀樹氏の意見

日本からの送金には税金は掛からないが、日本円からレアルへ換算する際 0.38%の税金が掛かる。

6) 所感

NPO 法人による AF 支援金の送金に関わる税金等を確認できた。今後は、リオプレット AFPJ チームを組織化し日本からの支援金のブラジル側受入組織の明確化が課題である。

以上